

第22回広陵町地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日時：令和元年8月19日(月) 15:00～15:45

場所：広陵町役場3階大会議室

参加者：会長（山村委員）、副会長（乾委員）、奥本委員、竹村委員、伊藤委員（代理：松尾）、永田委員、島中委員（代理：今谷）、井上委員、米田委員（代理：大久保）、藤井委員、古田委員、吉田委員（委員12名）
事務局5名

議事概要

1 開会

本日、17名のうち12名の参加を確認しており、会議は成立しています。

2 会長挨拶

本日は地域内フィーダー系統生活交通確保維持変更計画（案）について協議をさせていただきます。どうぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

3 議題

（1）地域内フィーダー系統生活交通確保維持変更計画（案）について

事務局：資料説明

会長：ご質問、ご意見ございませんか。

会長：乗り継ぎはどれくらい発生していますか。

事務局：4月からの実績は、1ヶ月あたり約100から120件です。

委員：今後実施する事業の公共交通総合時刻表作成について、何部作成し、どのように配布するのですか。

事務局：通常版を13,000部、簡易版を2,000部作成します。通常版は9月広報挟み込みで全戸配布します。簡易版は公共施設と商業施設に設置します。

会長：承認で意義なしでよろしいか。

（意義なし）

承認とさせていただきます。

4 その他

（1）質疑及び意見交換

会長：利用促進に繋がる案があればご提案願います。

会長：引き続き時刻表検索アプリで検索できますか。

事務局：従来とおり4つのアプリで利用可能です。

会長：年間費用はどれくらいですか。

委員：製作会社に負担いただいております、費用はかかっていません。

会長：H30年度利用者数は51,893人となっているが、1便あたりだとどれくらいですか。

事務局：中央幹線は1便あたりの最低乗車平均数は4.3人、最大が11.8人、北東部支線は最低

が0.3人、最大が8.3人、西部支線は最低が0.7人、最大が7.9人です。

- 会長 : 乗務員の対応の評価は悪くないと聞いています。さらなる対応の向上をお願いします。
- 委員 : プロのドライバーとして、徹底させていただきます。もし乗務員の対応が悪かった等意見があれば、ご報告願います。
- 委員 : 乗り継ぎのパターンはどうなっていますか。
- 事務局 : 乗継券の発行場所ははしお元気村、中央公民館、さわやかホール、役場を設定しています。これらはそれぞれの路線が乗り入れしている場所です。同じ路線には乗り継げませんが、違う路線であれば乗り継ぎが可能です。普通のバスの乗り継ぎは、路線ごとに運賃を支払わなければなりません、これらの場所では乗継券を発行しまして、新たな負担なく、賃金も発生せず乗り継ぎが可能です。
- 会長 : 乗り継ぎができるにしても、それによる待ち時間は最大どれくらい発生しますか。時刻表を見ただけではわかりにくいように思います。
- 事務局 : 乗り継ぎが発生する場所につきましては、滞在できるような工夫が必要であると考えています。
- 会長 : 乗り継ぎのわかりやすいPRを考えてもらい、ホームページ等で周知願います。
- 事務局 : 新たな利用の掘り起こしのため、広報等の周知をしていきたいと考えています。
- 事務局 : 乗り継ぎの具体的な例を説明します。中央幹線から南部支線へ乗り継ぐ場合、現行は乗り継ぎは1つしかできませんでしたが、国保中央病院から真美ヶ丘地区への移動、国保中央病院から百済地区への移動、近鉄高田駅から真美ヶ丘地区への移動、近鉄高田駅から百済地区への移動の4つがあります。中央幹線から北部支線へ乗り継ぐ場合、現行は1つしかできませんでしたが、国保中央病院から真美ヶ丘地区への移動、近鉄高田駅から真美ヶ丘地区への移動、近鉄高田駅から北小学校地区への移動の3つがあります。
- 会長 : 本日の会議はこの程度にとどめさせていただきたいと思います。事務局から次回の日程等について説明願います。
- 事務局 : 次回の日程は1月頃を考えています。議題は今回申請を出すフィーダー系統の評価です。また、10月号広報で元気号の無料乗車券を配布する予定です。
- 会長 : ご審議ありがとうございました。今後とも広陵町公共交通活性化のためご協力お願い申し上げます。本日はご参加ありがとうございました。

(以上)